

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.139

< 目 次 >

【報告】	
★ 第31回発表会	1
★ NPO法人いわき環境研究室	3
【連載】	
★ 新川のはじまり 水だより(13)	4
【事務局から】	
★ 令和2年1月～2月事務局会議報告	8
【会員の動きから】	
★ 会員の活躍状況	9
【リレーエッセイ】	
★ 新舞子海岸のアカウミガメ	10

【報告】 第31回 発表会 開催報告

去る1月19日(日)午後1時30分から、いわき市常磐西郷町にあるパルシステム福島「みんなの交流館」において、「第31回発表会」を開催しました。参加者は38名でした。

発表会は諸橋会長の挨拶で始まり、第一部の設定テーマ「いわき地域の環境科学遺産」による発表1件と自由テーマによる発表Ⅰとしての発表3件、休憩をはさんで第二部の自由テーマによる発表Ⅱとしての発表3件が続きました。第一部の座長は山田事務局長、第二部の座長は原田副会長が務めました。

今回の発表会では、昨年10月の台風19号ならびにその後の大雨により市内で大きな被害が出たことから、地域の自然災害と地球温暖化に関する話題を共有する機会として、自由テーマの後半に3件の発表をしていただきました。いわき市内を襲った大きな自然災害でもあったことから、発表会の限られた時間内で収めるのが難しいテーマであり、今



後、環境講座などでさらに議論が深められることが期待されます。

発表会終了後は懇親会が開催され、発表内容についての意見交換が行われました。

ご発表いただいた皆様、聴講いただき活発な討議に加わっていただいた皆様に感謝いたします。

設定テーマによる発表「いわきの環境科学遺産」

① 「いわき公園」

平川 英人 (いわき地域環境科学会 会員)

自由テーマによる発表Ⅰ

② 「フロート式小水力発電装置の形状に関する研究」

○五十嵐 拓海, 伊藤 隆也, 山本 敏和, 橋本 慎也 (福島高専電気工学科)

③ 「MPPT 機能を備えた2軸追尾太陽光発電装置の製作」

○玉川 巧海, ○高田 涼平, 山本 敏和, 橋本 慎也 (福島高専電気工学科)

④ 「1年間のボランティア活動紹介 ～終わりなき改善に向かって～」

中西 恒雄 (いわき地域環境科学会 会員)

自由テーマによる発表Ⅱ

⑤ 「災害地名と降水量 ～新川のはじまり水だより緊急報告～」

諸橋 健一 (いわき地域環境科学会 会員)

⑥ 「夏井川本川沿い平窪地区を中心とした台風19号による災害の実態と今後の課題」

橋本 孝一 (いわき地域環境科学会 会員)

⑦ 「環境情報 ～レベル5の世界～」

野村 芳秀 (いわき地域環境科学会 会員)

下記の写真は発表会の状況及び発表者の皆さん（一部）です。



◇◇◇NPO法人いわき環境研究室からの報告◇◇◇

(令和2年1月1日～2月29日)

【1】令和元年度 環境学習支援事業報告書をいわき市に提出しました

いわき市の令和元年度環境まちづくり担い手育成支援事業」の助成を受けて実施していた「いわき市内小学校・高校での環境学習支援事業報告書」を提出しました。

今年度は「水環境と自然エネルギーを楽しもう」のテーマで、従来の水環境学習支援だけでなく、自然エネルギーも含めた事業内容で推進しました。年度途中の追加となった中央台南中を含め、好間四小、いわき海星高校、平四小の4校で支援を実施しました。1月15日、その報告書をいわき市に提出しました。1月末に市より、関係先への報告書配布の承認がありました。

報告書の表紙、学習支援校の位置図、DVDラベルは下記の通りです。



DVDに収納した資料は報告書の他、下記の資料（各講座での使用資料、表紙）です。



【2】令和元年度2回目理事会を開催しました

今年度2回目となる理事会を1月28日(火)、平の松本楼にて開催しました。

中西副理事長より、各事業項目について実施状況を説明しました。

自然エネの利活用に関する事業としては、

1) 教育支援及び展示会、製作関係

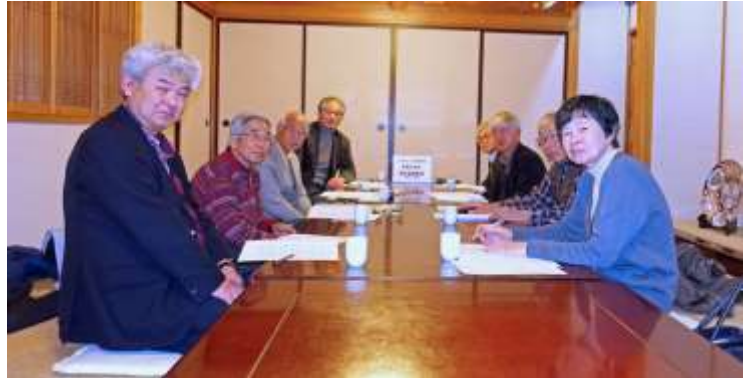
好間第四と中央台南中での水環境学習支援、平四小といわき海星高校での自然エネルギー講座、ふくしま環境教育フォーラム、夏休み自由研究教室、PAL展示会、いわきアイネットなどの教材の展示や製作を計画通り実施できました。田人ほっこり祭は水害の余波で中止になりました。尚、中央台南中の支援は計画外でしたが急遽実施しました。

2) 設備関係

諏訪神社境関係では「平窪自然塾」に、湯の岳山荘関係では「いわきの森に親しむ会」に移行が進んでいます。田人でも移行が出来るような状況になってきました。

いわき市から受託した「いわき市内小学校・高校での環境学習支援事業」を計画通り実施出来、報告書を提出したなどの報告を行いました。

理事会後、当研究室の有志が加わり新年会を開催しました。



<連載> 新川のはじまり 水だより(13)

いわき科学の里 主宰 諸橋健一

山と川、田んぼと畑が寄り添う新川のはじまりの地、高野の里。新川はいつものとおり静かに流れています。

神様が水の種を持ってきたという新川の母なる水源の山、弥ノ山(いやのやま)。山に雲がかかると雨になる。これもいつものとおり。水の種とは雲のこと。雲が雨になり、湧き水となって里人の暮らしを潤してきました。

また、いったん、水界のバランスが崩れると濁流となり、下流の人々に襲いかかります。水は神と龍神の二つの顔を持っています。

昨年の台風などによる大雨。これも気候変動をもたらした人間に対する龍神の怒りなのでしょうか。



写真 新川はじまりの地と弥ノ山(いやのやま)
遠くに頭を少しだけ出しているのが弥ノ山です

新川のはじまり雨ごよみ歳時記

ようやく、3年前から観測してきた新川上流域の降水量観測結果がまとまりました。これで3年分のデータが蓄積されたこととなります。データを蓄積し、提言につなげる仕組みは、いわき地域環境科学会にとって欠かせないものです。

昨年(2019年)1年間の降水量観測結果を月毎に、歳時記風に記してみました。

[1月] 睦月 6.5ミリ

1月はカラカラ天気。冷たく乾燥した関伽井風(あかいおろし)が吹いています。1月26日、沖上げの雪。積雪6.5センチ、降水量にして5.0ミリ。久々の降水でした。今月の降水は、すべて雪によるものです。今月の降水は2日だけ。老体の身には、冬の観測はまことに辛いことでもあります。

[2月] 如月 27.0ミリ

2月4日、立春以降に強く吹く南風、春一番。2月9日、朝から雪、10日朝までに12.5センチ積りました。2月19日、午後から雨、下界はザアザア降り、高野はしとしと3.5ミリ。2月28日、まとまった15ミリの雨。乾燥した如月の土に恵みの雨。秋は空から、春は地面からやって来ます。

[3月] 弥生 99.5ミリ

弥生。弥(いや)いよいよ、生(おい)おいしげる。春に3日の晴天なしのことわざどおり今

月から雨が多くなります。3月7日、河津桜開花。3月11日春の嵐。南からの春の空気と冬の空気の押し合いで南岸低気圧が発達。43ミリの雨が降りました。神の依代、弥ノ山は笑っています。

[4月] 卯月 101.5ミリ

春のいやなもの4K。花粉、強風、乾燥、黄砂。高野は杉が多いところ。東京に送り出すため戦後植林したものです。いわき市の杉花粉飛散量は全国で5位。

4月10日、高野の桜満開。朝からの雨が夕方には雪になりました。水雪(みずゆき)です。南岸低気圧のおかげで、桜と雪のコラボが見られました。38.5ミリの雨になりました。桜の咲く頃に吹く南風を桜真風(さくらまぢ)といいます。

[5月] 皐月 178.5ミリ

5月20日から21日にかけて、メイストームが吹き荒れました。122ミリの大雨でした。

悲しいニュースが飛び込んできました。高野小学校で、ちょっとした手違いから御衣黄桜が根元から切られてしまったとのこと。御衣黄は緑色の花を咲かせる桜の木で、学校や地域の宝として大切にされてきたものです

[6月] 水無月 248.0ミリ

6月7日、平年より5日早く梅雨入り。山背が吹いて、肌寒い一日でした。

6月28日、令和初の台風来訪。台風3号は、58ミリの雨をもたらしました。6月の降雨は15日。

[7月] 文月 179.5ミリ

7月に入っても山背型気圧配置が続きます。最高気温25℃を下回る梅雨寒。

4月下旬から5月上旬の気温です。湿ったヒンヤリ風、寒さの夏はオロオロ歩き。

7月13日、いわき市内の4海水浴場で海開き。久之浜、波立海水浴場が9年ぶりの復活となりました。

7月27日、台風6号三重県上陸、25.5ミリの雨をもたらしました。7月30日、梅雨明け。55日に及ぶ長い梅雨でした。梅雨明け明るい空に吹く風を白南風(しろばえ)といいます。梅雨が長びくと、白南風が待たれます。

[8月] 葉月 91.5ミリ

梅雨が明け、猛暑の季節に突入。急に気温が上がってきました。降雨は雷を伴ったものが多いです。

8月6日、台風8号宮崎県。8月15日台風10号広島県に上陸。フェーン現象により新潟で40.3℃を記録。台風10号は17.5ミリの降雨をもたらしました。

8月20日、雷雨8ミリ。この雨で、夏は終わり、秋風が吹きました。今日から、秋雨前線が停滞。秋雨の季節となります。残暑は残ります。

[9月] 長月 248.0ミリ

海水の温度は9月に最も高くなります。9月の台風は要注意です。9月9日、台風15号、千葉県に上陸、最大瞬間風速57.5メートルを記録。千葉県内に大規模停電をもたらすなど大きな被害

がありました。高野での降水量は134ミリ。好間川で氾濫危険水位を超え、北好間、下好間地区などに警戒レベル4の避難指示が出されました。

9月11日、12日の雨のあと、ならいの風が吹き、湿度が下がり、一気に涼しくなります。空にはうろこ雲が広がりました。

9月23日、台風17号、日本海へ抜け、温帯低気圧となります。降水量23.5ミリ。

〔10月〕神無月 785.0ミリ

台風19号が10月12日19:00頃静岡県伊豆半島に上陸。13日未明に、いわき市を通過し、太平洋に抜けていきました。高野にこの台風がもたらした雨は、12日の14:30から24:00までの9.5時間で377.5ミリ。記録的な大雨になりました。夏井川や新川が氾濫。平浄水場に浸水、45,400戸が断水。復旧まで2週間ほどかかりました。

高野では、農地への土砂の流入、崖崩れなどが発生。林道川平・田代線、銅目木・田代線、白狐・広畑線が通行止めとなりました。

10月25日、台風21号から繰り出された湿った暖かい空気が低気圧に送り込まれ大雨となりました。24時間降水量は176.5ミリ。宮川、大久川、夏井川が氾濫。常磐湯本町傾城で土砂崩れ発生。10月の降水量785ミリは観測史上最高値です。

〔11月〕霜月 105.5ミリ

11月は、年間で最も雲が少ない月。天気が安定する月です。11月1日の夜半から、木枯一号が吹きました。11月の高野は強風の季節。3月まで続きます。

11月は霜月、22日の朝初霜。22日から23日にかけて、この時節には珍しい98.5ミリのまとまった雨が降りました。11月29日初氷。今年の秋は短かいように感じます。

〔12月〕師走 35.5ミリ

12月からは気象統計上の冬。しかし、冬らしくない天気が続きます。全国各地から記録的な小雪のニュース。高野では全く雪が降りません。初雪は来年までおあずけ。今年の冬は暖冬になりそうです。

表1 新川上流域高野の月別降水量 (mm)

	2016年	2017年	2018年	2019年
1月		50.0	38.0	6.5
2月		21.5	9.0	27.0
3月		99.5	344.0	99.5
4月		154.5	146.0	101.5
5月		172.5	200.5	178.5
6月		162.0	156.5	248.0
7月		155.0	107.5	179.5

8月		198.5	296.5	91.5
9月	326.5	265.5	246.5	248.0
10月	60.5	424.5	66.5	785.0
11月	98.5	49.5	59.0	105.5
12月	82.0	30.0	26.5	35.5
計	×	1783.0	1696.5	2106.0

【事務局から】令和元年度 1月～2月 事務局連絡会議報告 & 事務局連絡会議への参加のお誘い

会の活動の活性化に向けて、事務局連絡会議の内容のダイジェスト版を会員の皆様にお伝えしています。今回は、1月と2月の事務局会議の内容です。

○1月事務局連絡会議

日時：令和2年1月8日（水）18：30～20：20

会場：福島高専専攻科棟1階 多目的講義室

出席者：7名

議事内容：

- ・年頭会長挨拶
- ・報告事項
 - (1) 事務局関係（会員の動向，ホームページの更新状況・アクセス状況）
 - (2) 事業・プロジェクト関係（12月の活動内容報告）
 - ① 令和元年度第2回幹事会開催報告
 - (3) 編集委員会関係（会報「ふいーるど」138号の発送完了報告）
 - (4) 関連団体の活動状況（いわき環境研究室から）
- ・協議事項
 - (1) 第31回発表会について（当日の進行の確認，役割分担の決定）
 - (2) 会誌「EQUAL」32号の編集について
- ・その他
 - (1) お知らせ 1件（福島高専原子力規制人材育成事業・教育研究フォーラム開催）

○2月事務局連絡会議・拡大編集委員会

日時：令和2年2月3日（月）18：30～20：10

会場：福島高専専攻科棟1階 多目的講義室

出席者：8名

議事内容：

- ・報告事項

- (1) 事務局関係（会員の動向，ホームページの更新状況・アクセス状況）
- (2) 事業・プロジェクト関係（1月の活動内容報告）
 - ① 第31回発表会実施報告
- (3) 会員個人の活動状況（各種会議への参加報告）
- (4) 関連団体の活動状況（いわき環境研究室から）
- ・協議事項
 - (1) 会誌「EQUAL」33号の編集について（拡大編集委員会）
 - (2) 令和2年度の事業について
 - (3) 会報「ふいーど」139号の編集について
 - (4) その他 「いわき交流ひろば」への出展の打診について
- ・その他
 - (1) 今後の郵便物の発送について
 - (2) 「いわき地域の復興と未来を考えるワークショップ」開催案内
 - (3) 「令和2年度地域創生総合支援事業（サポート事業）第1次募集告知」（回覧）

* いわき地域環境科学会事務局では，原則毎月第1月曜日の18時30分から20時50分（それよりも早く終わることもあります）に福島高専にて事務局連絡会議を開催しています。会の活動の状況を詳しく知ることもできますし，各自が考えていることを会の活動に反映させることも可能です。事務局連絡会議に関心のある方・一度出席してみようという方は，事務局担当の山田までご一報ください。皆様のご参加をお待ちしております。

次回の事務局連絡会議は，4月6日（月）18時30分からとなっております。

〈事務局担当〉 福島高専 電気電子システム工学科 山田 貴浩
 電話：0246-46-0800 FAX：0246-46-0807(学科共用)
 電子メール：yamada@fukushima-nct.ac.jp

【会員の動きから】 一当会の会員がそれぞれの分野で活躍しています。

該当会員	時期・場所	主催所管	内容
橋本孝一 和田佳代子	R2.1.27 いわき市役所	いわき市 水道局	いわき市下水道事業経営審議会が開催され、市長より下水道事業の経営について諮問されました 台風19号による被害及び対応状況について

【リレーエッセイ】

新舞子海岸のアカウミガメ

平川英人 (会員)



令和元年7月17日に、環境教育支援のため、好間第四小学校に行ってきました。

この日は好間川の水源から河口までの間をバスに乗って視察しました。支援対象児童は全校生32名でした。朝9時過ぎに学校を出て、水源地である雨降山を観察した後で、夏井川と好間川の交流点を観察し、夏井川河口左岸である新舞子海岸に到着したのは正午前でした。子どもたちは全員手作り弁当を持参し、堤防のテトラポットに腰かけて、先生方と一緒においしそうに食べていました。

食後30分近く、新舞子海岸で休憩を取りました。砂浜には、多くの貝殻や海洋動物の遺骸が散乱していました。貝殻では、ホッキガイが圧倒的に多くみられました。珍しいものではタツノオトシゴがありました。タツノオトシゴは魚の仲間であると説明しても、子どもたちには信じてもらえませんでした。

その中で最も人気があったのはアカウミガメの甲羅でした。小さな破片を持ってきて「これは何ですか」と質問されましたので、カメの甲羅であると思いましたが、もう少し大きな破片があればはっきりすると思い、現場に足を運ぶと甲羅の4分の1ほど残っていました。それをみてからアカウミガメと査定しました。

アカウミガメは、いわき海岸でもめったにお目にかかることのない生物で、環境省レッドリストの絶滅危惧種に指定されています。肉を食べることは、とんでもないことですが、私は60年ほど前で絶滅危惧種でなかった時ですが、肉を食べたことがありました。私は三重県の志摩半島出身で、子ども時代はそこで生活していました。夏場に定置網に稀に混入することがありました。船着場に陸揚げされたアカウミガメは、甲羅を下にひっくり返されると、短い手足をバタつかせるだけで前後に進むことができません。甲羅をはがす時に、大きな目から涙がポロポロ流している姿が、かわいそうで忘れられません。肉と内臓各部位を適当な大きさに分けて、煮てからリヤカーで町に売り歩いていた。アカウミガメを食べた感想を聞かれると、匂いが強く、肉や内臓の各部位ごとに味が違ったことを思い出します。

志摩半島では食べる風習はありますが、いわきでは昔からアカウミガメが捕れると持ち帰り、お酒を飲ませてから海へ放して、大漁・豊漁を祈願したそうです。

アカウミガメの産卵は屋久島、日南海岸、日和佐海岸、遠州灘海岸が有名ですが、太平洋側では、いわき市が北限でした。2007年に宮城県山元町で産卵が確認され、いまでは山元町が北限となっています。今後地球温暖化の影響で、北限が更に移動することが考えられます。

この後子どもたちは河口の舟着き場でカニ釣りをして楽しみました。学校に戻り、この日の思い出を校長先生に報告をした中にアカウミガメの話もあったそうです。楽しい1日でした。

2020. 3.1. No.139

発行：いわき地域環境科学会

福島工業高等専門学校

〒970-8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0837

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org